

頭陀袋

20 平成二六年三月号

発行 中山かんのん

恩林寺



中山中学下、電話三四一―二四五

*施しを受けなかったバラモン

(お金、無常)

昔、いろいろな宗教を信じている国王が居た。ある日、善行をつみたいと思ひ七宝を積み上げてほしいものは誰でも一掴みずつだけ宝をとってよい。と告げた。國中の民が一掴みずつ宝を持ち帰ったが数日を経ても宝の山は減ることがなかった。仏はこれを知って、バラモンの姿になり、その国へ行き、王にまみえ、

「私は遠くより来たものですが宝石をいただいて家を建てたいと思ひます」と言つと王は、「其れはいいことだ。宝石を一握りとして返るとよい。」と答えると、バラモンは一握り取り、七歩歩いたところで、戻つてきて其れを元に返した。王は不思議に思ひ「どうしてとらないのか？」と聞くと、「これでは小さな家しか作れません。妻を娶るには足りませんから取りません。」王が「其れでは三回つかんで取るがよい。」バラモンは三回つかみ、また七歩歩いて戻り、元のところに返してしまつた。

「まだ足りないのか？」「もしも息子や娘ができると成長して嫁をもらつたり、嫁がせたりしなければなりません。また、祭りや弔いごとを考えるととてもこれだけではタリマセン。」王はとうとう「此処にある宝物は全部持ち帰れ。」と言つとバラモンは一度全部の宝を受け取つたが、すぐ、捨ててしまつた。王は不思議に思つてそのわけを聞くとバラモンは、人はいくばくも長らえる事はなく、万物は無

常で朝夕保ちがたいと言ふのに、人生はさまざまな因縁にまとわれ、苦しみは深まるばかりです。この苦しみの前には山のような財宝も何の約にも立ちません。」この言葉に王はハツとして教えを明らかに聞きたいと思つた。

〔関連話〕貧相は道業成弁の相

惟慧道定和尚（ゆいえどうじょう和尚）は若いころ長崎に行き、そのころ渡来してきたばかりの隠元禪師について修行をした。隠元禪師が興福寺（長崎の唐寺）に居られた時のこと。ある日信者の一人が参詣して大衆の中に隠元和尚を見てその徳相（人相がすばらしいのに驚き、「いつの日にか、きっと大善知識の僧になられるであろう。そしてさらに惟慧和尚を見て「あなたは非常に貧相であるから一代、定めてご不自由なことでしよう。」

と。和尚は其れを聞いて、かえつて喜び、「そうか。まったく貧相か。しかし貧乏相ならかえつてまことにうれしいことだ。これすなわち道業成弁の相なり。（坊さんの修行に向いている人相だ。）と、喜んだという。*学道の人はず、すべからず貧なるべし。財おければ必ずその志を失う。在家学道の者はなお財宝にまとわり、居処をむさぼり、眷属に交わればたとえ、その志ありと言えども障道の縁多し。（正法眼蔵随聞記より。）

*お寺からのお知らせ。

涅槃忌、春の彼岸会、永代経祠堂法要

三月十六日、(日) 午前十一時(恩林寺本堂において) 予定いたしております。

お昼ご飯(おとき)を準備いたします

皆様ご多用中のところ恐れ入りますが、ご参詣くださいますようご案内申し上げます

(追つて改めて案内状を出させていただきます) 住職 合掌